

## 飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

### 第 147 回 ビジネスの原点「ろうそくの心」

2006.4.30

先日、結婚式場のオープンに伴い、「<sup>けんどうしき</sup>献堂式」に出席する機会を得た。正直小生、幼稚園は聖公会だったが、決してまともなクリスチャンでないため、生まれて初めての体験であった。献堂式とはキリスト教で、新築の会堂を神にささげる儀式のことである。俗っぽく言って恐縮だが、...ただチャペル（教会堂）だけ作っても、何ら意味を持たない。正に仏作って魂入れず、...比喩が適切でないかもしれないが、そんなイメージの儀式である。

牧師が司祭を務め、厳粛で荘厳なうちに粛々と執り行われた儀式に、新鮮な感動を味わうことができた。牧師さんの説教も聖書を題材としたもので、すごく感銘を受けたが、そのあとの祝宴での挨拶で、某氏が語った言葉に大変共鳴した。今回はそれをご紹介します。

たとえば...「ろうそくの心」

ろうそく一本一本は、小さく、<sup>かほ</sup>細く、たいした力も持っていない。

その一本に明かりが<sup>とも</sup>灯る、小さな小さなともし火は、ほのかな明るさと、<sup>わず</sup>僅かな暖かさを懸命に提供してくれる。

わが身を<sup>はず</sup>削り、必死に燃え続けるろうそくは、燃え尽きるまで、ただひたすら、それを繰り返すのみである。

それが 10 本、100 本、1,000 本となった時、

どんなに人の心を和ますか、

明るく暖かい時を与えてくれ、人の心を豊かにしてくれる。

まさか、やたらに燃え尽きる訳にはいかないが、

結婚式場で働くスタッフの方は、この「ろうそくの心」を忘れてはならない！

一生に一度の、人生最大のメモリアルイベントを、

「<sup>いちごいちえ</sup>一期一会」の気持ちで、精一杯、「ろうそくの心」を実践して頂きたい...

小生流に解釈すると、多分、こんな趣旨の挨拶だったと思う。素晴らしいお話しである。結婚式場に限らず全てのサービス業、サービス業に限らず全てのビジネスに当てはまる、基本的な「心がけ」である。毎日の業務オペレーションに慣れ切ってしまい、何ら疑問をもてなくなった現代人、オレが俺が...で、他人のことに無関心になり切ってしまった日本人、「ろうそくの心」を少しはインプットしたいものである。